



キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

意識調査

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

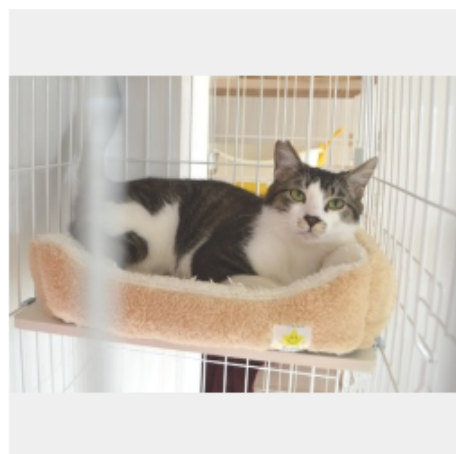
科学

ライフ

猫カフェなのに「猫の屋おでん」 命名に込められた深〜い意味

4/8(月) 16:30配信

デイリー



スタッフに加わった「さくらねこ」のまる

4月11日、神戸市灘区に猫カフェがオープンします。その名も「猫の屋おでん」。なぜ、おでん？オーナーご家族のお話から、その答えが見えてきました。

阪急電鉄・王子公園駅から徒歩こと約10分。住宅地の一角に「猫の屋おでん」があります。「家で暮らす猫を見て、猫を飼うイメージをしてもらいやすいように」と、オーナーが自宅を改装して作ったのです。

猫カフェの構想は6年前にスタートしました。全国の猫カフェを巡り、物件探しも随時。でも「夜に鍵を掛けて猫だけ置いて帰るのがどうしてもイヤだった」と言うオーナーは、最終的に自宅での開業を決めます。ガラス張りの明るい室内にはソファやテーブル、キャットタワーなどが並び、猫たちが自由気ままに遊び、眠り、食事をして…その姿はまさに「自宅」でくつろぐ猫そのものです。

スタッフ猫は全部で9匹。映画「E. T.」のモデルといわれるスフィンクスをはじめ、ベンガル、エキゾチックロングヘア、スコティッシュフォールドと、滅多にお目に掛かれない猫種からなじみの猫種まで、さまざまな種類がいます。

そして、迎えた経緯もまた多様。いわゆる「適齢期」を過ぎてしまい、ペットショップから直々に頼まれた猫、廃業したブリーダーから迎えた猫、事情によりどうしても飼えなくなった飼い主から引き取った猫…。

その中に、耳先を桜の花びらの形にカットした「さくらねこ」がいました。名前は「まる」。猫の保護・譲渡活動を行っているNPO団体から迎えました。「さくらねこ」とはTNR活動（T=Trap／捕獲し、N=Neuter／不妊去勢手術を施し、R=Return／元の場所に戻す）によって手術済の猫を指す通称。耳先カットがその目印となり、2回目、3度目の不必要な捕獲を防ぐことができます。手術の麻酔時にカットするので、猫が痛みを感じることはありません。

実は、こうした保護猫が猫カフェに譲渡されることはほとんどないそうです（お客様への譲渡を目的とした「保護猫カフェ」とは趣旨が異なる）。なぜなら、保護主は猫が家族の一員として迎えられ、家庭猫として穏やかに暮らしていくことを望んでいるから。猫カフェスタッフという“職に就く”ことは、できれば避けたいのでしよう。

ただ、猫の屋おでんのオーナーは、あえてその状況を作りました。

「ペットショップで売られていた猫も、飼い主がいなくて保護された猫も、みんな同じ猫なんです。保護猫に純血種はいないと誤解している方もいるようですが、そんなことはありません。保護猫という存在自体を知らない方もいれば、存在は知っていても今は迎えられないから、保護猫カフェや譲渡会はハードルが高いと感じている方もいる。純血種が多い猫カフェにさくらねこを迎えることで、知るきっかけを増やしたいと思ったんです」

さまざまな種類の、さまざまな経歴のある猫をスタッフに置くことで、新しいタイプの猫カフェを作ろうとしたわけです。もちろん、何らかの理由でスタッフに向かないと判断すれば、その時点で家庭猫に“キャリアチェンジ”する予定です。

「猫と触れ合いたい、珍しい種類の猫を見たい、猫を飼うことを検討している、保護猫を迎えたい…ここへ来てくださる理由は何でもいい。猫を飼いたい方にはそれぞれの猫種のデメリットも含めた特徴をお伝えしますし、保護猫を迎えたい方には保護団体や譲渡会をご紹介することもできます。人と人、人と猫のつながりの中で、猫に関するあらゆることの“ハブ”のような存在でありたいですね」

さて、店名の由来は分かりましたか？おでんにはいろいろな具材が入っていて、だからこそいい出汁が出ます。そして、ほっこりとしてあたたかい気持ちにしてくれる。「猫の屋おでん」はそんなお店です。（神戸新聞特約記者・岡部充代）

▼「猫の屋おでん」 <http://nekonoya-oden.com/>